



令和6年度

運営に関する計画
自己評価

大阪市立デザイン教育研究所
令和6年5月

大阪市立デザイン教育研究所 令和5年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

組織目標

学生自らが工業製品やそれに類する“モノ”や“コト”をつくりだし、未来を切り拓く力を育成する。

現状と課題

1980年代の日本は、市民生活の質的向上を背景に、個人消費や設備投資を中心とする内需によって産業が大きく飛躍し、あらゆる産業分野で「デザイン」が強く求められる時代であった。このような状況の中、美術や工芸を専門的に学んできた高校生が、デザイン・造形教育を一層深化・充実させるための専門教育機関として、大阪市は1988年に大阪市立デザイン教育研究所を創設した。以来、35年にわたって創設時の理念を継承し、高度なデザイン教育を提供することで、これまで国際文化都市大阪の発展に寄与しうる優れた人材を育成してきた。本研究所は2年制の工業専門課程を有する専修学校で、各学年の定員は45名、総定員数は90名の小規模校である。産業デザイン分野における全国唯一の公立専修学校として、デザインに関する知識・技術の向上をめざしている。

志願状況は、毎年、他府県からの志願者があり、本研究所の教育活動に対して全国的に一定の評価を得ている一方で、一番近い大阪府立工芸高等学校からの志願者は伸び悩んでおり、継続教育機関としての役割が低下していることも事実である。本研究所は、工芸高校に隣接し、校舎は4階建ての施設の1～3階部分を使用している。4階部分は工芸高校の格技室で、出入口などの動線は別になっているものの施設自体が工芸高校と併用する形となっており、工芸高校の府への移管に伴い様々な課題が存在している。今後も相互の密接な連携が重要事項となっている。

以上のような施設面や志願状況を踏まえたうえで、本校のシステムや特徴を十分に活用し、これまでよりも一層学生一人ひとりの個性に応じたきめ細やかな指導が実現できるような学校をめざしていきたい。

中間目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 勤労観・職業観を育てるとともに、自己の使命感の確立を目指す。
- 「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 社会で自立できる人材を育成する。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教育DXの推進によりカリキュラムの改革を図る。
- 積極的な情報発信を行い、開かれた学校づくりを進める。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 修業年限2年という短いスパンでのキャリア教育の充実に向け、入学当初から就職活動を見据えた取り組みや社会人としての基礎知識を身に付けさせることができるように、今年からキャリアデザインの授業を新設した。一人ひとりが自分のキャリアをデザインできるように取り組んでいく。
- 今年度は淀川・大和川右岸水防事務組合連合会と連携し、水防事業の広報等に関するポスター等を制作するプロジェクトを企画している。デザインを通じて防災についても学ぶ貴重な機会になると思われるので、積極的に学生を指導することで防災・減災に対する意識を育成する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 教室における講義中心の知識偏重型授業だけではなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけではなく、積極的なコミュニケーションを通じた学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。
- 学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、21世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。また、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネススキルを高める。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○ HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することでより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけではなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知されるよう広報活動に取り組む。

○ 学校での学生生活を快適に過ごすことができるように、昨年度学生や保護者から要望があり、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会からも改善を指摘された、トイレの洋式化に取り組む。

3 本年度の自己評価結果の総括

| |
|--|
| |
|--|

大阪市立デザイン教育研究所 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成 状況 |
|---|----------|
| <p data-bbox="204 577 587 611">【安全・安心な教育の推進】</p> <p data-bbox="226 622 497 656">学校園の年度目標</p> <p data-bbox="188 689 1278 869">○ 修業年限2年という短いスパンでのキャリア教育の充実に向け、入学当初から就職活動を見据えた取り組みや社会人としての基礎知識を身に付けさせることができるように、今年からキャリアデザインの授業を新設した。一人ひとりが自分のキャリアをデザインできるように取り組んでいく。</p> <p data-bbox="188 880 1278 1059">○ 今年度は淀川・大和川右岸水防事務組合連合会と連携し、水防事業の広報等に関するポスター等を制作するプロジェクトを企画している。デザインを通じて防災についても学ぶ貴重な機会になると思われるので、積極的に学生を指導することで防災・減災に対する意識を育成する。</p> | |
| <p data-bbox="293 1142 1187 1176">年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> | 達成 状況 |
| <p data-bbox="188 1225 347 1258">取組内容①</p> <p data-bbox="188 1281 1272 1415">学生が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、自らの力で生き方を選択していくことができるよう、必要な能力や態度を身に付けることを通じて、社会的・職業的自立を促す。</p> <hr/> <p data-bbox="188 1438 258 1471">指標</p> <p data-bbox="188 1494 1272 1572">年度末での学生の就職先におけるクリエイティブ関連企業への就職率の割合を90%以上とする。</p> | |
| <p data-bbox="188 1590 347 1624">取組内容②</p> <p data-bbox="188 1646 1272 1736">1年次の教育課程に新設したキャリアデザインの授業を通し、未来の人生設計について入学当初から考えさせるように取り組む。</p> <hr/> <p data-bbox="188 1758 258 1792">指標</p> <p data-bbox="188 1814 1272 1892">学校評価アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を70%以上とする。</p> | |

| | |
|---|--|
| <p>取組内容③</p> <p>淀川・大和川右岸水防事務組合連合会からの依頼である水防事務の広報等に関するポスター等の制作プロジェクトにおいて、学生がクライアントの意向を理解し、効果的なデザイン制作を行えるよう指導することで、学生の防災・減災に対する意識を育む。</p> | |
| <p>指標</p> <p>プロジェクト前後に行うアンケートにおいて、「ハザードマップなどで、自宅周辺の災害リスクを確認している。」「避難場所の位置を確認している。」と回答する学生を80%以上とする。</p> | |
| <p>取組内容④</p> <p>集団生活における規範意識を高め、ルールやマナーを守って学校生活を送れるよう統一した指導を継続的に行う。</p> <p>人権教育に関する活動を通じて、他者や障がいをもつ人へ配慮する気持ちを養い、人権意識の向上に努める。</p> | |
| <p>指標</p> <p>学校評価アンケート「教職員間で連携した指導が行われている」の肯定率を70%以上とする。</p> | |
| <p>取組内容⑤</p> <p>「キャリアデザイン」「職業指導」の授業を計画的に進めるとともに、「特別講義」「プロジェクト」等の授業との横断的な取組みを通してデザイン分野への職業観を育む。</p> | |
| <p>指標</p> <p>学校評価アンケート「学生一人一人の能力・適性を生かし、主体的に進路選択ができるように、きめ細かい進路指導が行われている。」の肯定率を70%以上とする。</p> | |
| <p>取組内容⑥</p> <p>情報社会の進展に応じた情報モラルを身につけさせ、自分だけでなく他人の個人情報・法律上の権利を尊重できる態度を養い、適切な情報発信の手段・方法について指導する。</p> | |
| <p>指標</p> <p>成人年齢の引き下げに伴い自分の責任の大切さを理解していると答える学生の割合を80%以上にする。</p> | |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

市立デザイン教育研究所 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成 状況 |
|---|------------------|
| <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 教室における講義中心の知識偏重型授業だけではなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけではなく、積極的なコミュニケーションを通じた学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。</p> <p>○ 学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、21世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。また、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネススキルを高める。</p> | |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> | <p>達成 状況</p> |
| <p>取組内容①</p> <p>学生一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、21世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、年度末のデ研展で報告できた学生の割合を80%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容②</p> <p>グループワークや課題に協働して取り組ませることで、自己の考えを表現できる力を育て、外部の方に自分たちの取り組みをわかりやすく説明できるようにアウトプットする能力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>デザイン教育研究所の取り組みを外部の方に積極的に説明できたと自己分析できた学生の割合を75%以上にする。</p> | |

| | |
|---|--|
| <p>取組内容③</p> <p>「課題研究1・2」の授業を学生それぞれの興味・関心や実態に合わせながら進め、課題研究発表会で学生自らが達成感を感じられる成果発表ができるように指導し、将来、自分自身のキャリアに応用できる能力を育む。</p> | |
| <p>指標</p> <p>学校評価アンケート「2年次における課題研究に対して満足のいく取り組みができている」の項目を70%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容④</p> <p>クリエイターとしての必要な英語能力を身につけ、デザインの力を現場で発揮できるように、デザインに関する簡単な英語の文章や会話を理解できる力を育成する。</p> | |
| <p>指標</p> <p>在校生全員にTOEIC BRIDGEを受験させ、正答率50%以上の割合を昨年以上にする。</p> | |
| <p>取組内容⑤</p> <p>学校行事・ボランティア活動等への積極的な参加を促し、学生が自ら考え、他者と協働しながら物事に取り組み、やり遂げることで、自尊感情や社会人基礎力の育成の一助とする。</p> | |
| <p>指標</p> <p>学校行事への参加率を昨年以上にする。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| | |

大阪市立デザイン教育研究所 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成 状況 |
|---|----------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することでより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけではなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知されるよう広報活動に取り組む。</p> <p>○学校での学生生活を快適に過ごすことができるように、昨年度学生や保護者から要望があり、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会からも改善を指摘された、トイレの洋式化に取り組む。</p> | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成 状況 |
| <p>取組内容①</p> <p>自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任を持つとともに犯罪被害を含む危機を回避するなど、情報を正しく安全に利用できるようにするための情報モラルの育成を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>各授業担当者が年1回以上授業において、情報モラルについての指導を行う。</p> | |
| <p>取組内容②</p> <p>学生自身が心身の健康状態を正しく把握し、対応していける能力をつけるため、掲示物を作成し啓発していく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>啓発のための掲示物の作成を5回以上行い、学生の心身の健康に対する意識の向上を促進する。</p> | |

| | |
|--|--|
| <p>取組内容③</p> <p>奨学金業務の円滑な運営より、生徒が経済的な面で安心して学校生活を送れるようにする。</p> | |
| <p>指標</p> <p>奨学金の広報活動を工夫し周知徹底に努め、奨学金申請に関するトラブル件数を0にする。</p> | |
| <p>取組内容④</p> <p>学校説明会や学校訪問の資料を作成し、本校受験希望者の本校への理解を深めるために学校説明会・学校訪問等を積極的に実施する。</p> | |
| <p>指標</p> <p>学校説明会を年間4回以上実施する。在籍生徒の母校を中心に学校訪問を20校以上実施する。</p> | |
| <p>取組内容⑤</p> <p>教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が学生たちの前で健康で生き生きと働くことができ、学生たち一人一人に向き合う時間を確保することができる環境の実現に取り組む。</p> | |
| <p>指標</p> <p>教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準1で50%以上、基準2で75%以上とする。</p> | |
| <p>取組内容⑥</p> <p>ICTの活用による業務の効率化や夏季・冬季休業中に学校閉庁日を設定するなど休暇を取りやすい環境や、悩みを軽減する環境をつくり、教職員の心身の健康を図る。</p> | |
| <p>指標</p> <p>ストレスチェックの総合（健康リスク）の評価を100にする。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| | |